

グループホーム ひまわり

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			1 ~ 5 (自己 1~24・外部 1~14)	自己評価24項目・外部評価14項目	8	
理念に基づく運営	1 理念の共有(自己 1~3・外部 1~2)			自己評価3項目・外部評価2項目	2	
	1 理念の共有	1 外部評価1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を持ちながら、その人らしく、今までと同じように普通に暮らすことを理念として実践している。昨年度の外部評価の改善点として、支え合いの心や心に寄り添うことを言葉に表し、職員や入居者にも書いてもらい、地域啓発のためにもリビングに貼った。	1	理念の浸透は、まだ不十分であるため、認知症ケアの学習や研修により、継続して深めていきたい。
		2 外部評価2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の予防教室に参加（月1回）させていただきながら、さらに昨年11月からは、自施設の予防教室を開催（週1回）し、地域住民とのふれあいにより、普通の暮らしの支援の実践がある。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域との交流活動内容を施設たよりに載せ、ご家族や運営推進委員・地域隣組の方に見ていただいている。	1	施設たよりの広報を工夫して広げていきたい
	2 地域との支え合い(自己 4~6・外部 3)			自己評価3項目・外部評価1項目	2	
	2 地域との支え合い	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の予防教室・自施設の予防教室で顔なじみになり、施設外でも、日常的な挨拶ができています。学童保育や高校生ボランティアの訪問受け入れを通して幅広い層との交流が行えるよう、努めている。	0	
5 外部評価3		地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の診療所が元々友の会形式であり、地域密着の行事（もちつき会・盆踊り大会・友の会温泉旅行など）が年行事として開催されており、合同で参加している。また、職員が徘徊模擬訓練に向けて、打ち合わせ会議の参加やサポーター講座講師・徘徊役など受け、行政や地域民生委員・住民の方と一緒に活動している。	1	今後もさらに、官民協働で認知症の啓発や徘徊模擬訓練・一人暮らしの支援にとりくんでいきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地域 合との	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流を目的に、予防教室を毎週開催し、一人暮らしの方やうつ症状の方・認知症の方など参加があり、認知症の予防にも貢献できている。また、教室での活動として、体力に応じて近辺の公園のゴミ拾い（春に1回実施）をしている。今後も状態を見ながら、地域貢献の場を増やしていきたい。	1	人のために役に立つことで、生き生きされることを実感している。今後も活動の場を増やす予定。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	1	
		7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価シートの記入を職員で分担し、話し合いながら補足した。各職員の記入や話し合いにより、日頃のケアサービスの見直しとなった。評価結果の課題についても、前向きな姿勢で積極的に取り組み、改善している。	1	確認の話し合いは少し時間的に不十分な部分があり、今後も継続していく。
		3 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設たよりに入居者の生活状況や地域交流の記事を載せ、会議で説明している。評価や改善内容も資料を元に報告し、サービスの向上に活かしている。課題であった地域の災害連絡網や徘徊者捜索については、参加委員さんのご協力により改善し、サービス向上に繋がった。	0	
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が官民協働の認知症介護コーディネーター養成研修受講中であり、長寿社会推進課と協働の役割があり、連携してサービスの向上に取り組んでいる。また、あんしん介護相談員受け入れ事業所職員の会議に参加し、職員の服装についての検討課題を提案するなど、サービスの向上に積極的に取り組んでいる。	0	
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、研修（認知症コーディネーター養成研修・法人内研修）を受けており、対象者があれば説明の用意がある。現在、必要な方は無い。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法の資料の読み合わせを行い、認識を一致させている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
理念に基づき 運営	4 理念を 実践す るため の体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は契約書を元に十分説明し、納得を図っている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	あんしん介護相談員の訪問が月1回あり、苦情の聞き取りができる機会がある。また、地域住民との交流や民生委員さんの訪問もあり、意見を外部者で表す機会があり、それらを運営に反映する容易がある。	0	
		14 外部 評価 8	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員の異動・金銭管理は家族の訪問時に伝えている。また、毎月発行の施設たよりに掲載している。心身の健康状態は、その都度伝え、医療管理の詳しい説明が必要な時は、連携の診療所医師との面談を設定している。	0	
		15 外部 評価 9	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が3か月交代の受け持ち制で、利用者や家族とのコミュニケーションを図り、不満や要望について聞き取るようにしている。また、家族説明会や家族懇親会を利用して、意見を引き出している。家族が運営推進会議に交替で参加し、外部者へ意見が言える機会がある。苦情に対しては、苦情処理対応マニュアルに沿って、再発防止に努め	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1~2回の会議で、意見交換は自由に言える雰囲気があり、職員の提案は話し合いで、運営に反映させている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や突発的な対応にも柔軟に対応し、勤務調整している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 た め の 実 体 制 す	18 外 部 評 価 10	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交替は無いが、職員の離職については、ホームでお別れ会をして、利用者のダメージ防止に配慮している。	0	
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	3	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19 外 部 評 価 11	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に際しては、特に差別は無いが職員の年齢構成を考えた採用をしている。社会参加や自己実現については、法人内の年間自己啓発の自己計画表があり、定期的な面談で、応援している。研修希望も勤務調整で、受講できている。	0	
		20 外 部 評 価 12	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が、認知症コーディネーター要請研修を受講しており、その伝達学習で強調して繰り返し伝えている。	1	人権尊重の理念は繰り返し伝えることが必要であると考えている。今後も継続して学習していく。
		21 外 部 評 価 13	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の介護部は行政のすすめる「認知症の方が安心して住み続けられる街づくり」に協働しており、管理者や職員も積極的に研修や講習会に参加している。前年度と交替して、2名の職員が認知症ケア研究会の講習（年7回）を受講している。法人内の認知症ケア学習会（年6回）にも、積極的に参加している。	1	子育てなどで参加できない職員がいるため、伝達学習をしていく。
		22 外 部 評 価 14	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の活動に官民協働で参加しており、交流する機会があるが、今年度、職員が地域の同業者との交流する機会がなかった。	1	地域の同業者との交流を図っていきたい。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスはケアサービスに直接、影響を及ぼすため、十分配慮して休憩時間の確保や休息できるベッドを設置している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの力量にあわせスキルアップの研修を促し、管理者も率先している。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	1	
安心と信頼 に向けた関係作り と支援	1 相談から 利用に至る までの関係 づくりとそ の対応	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価4項目・外部評価1項目	0	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用まで情報提供を元に本人と面談し、十分聞き取りしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用まで情報提供を元に家族と面談し、十分聞き取りしている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応については、家族や介護支援専門員・包括支援センター・生活保護課との連携により、必要時、支援する容易がある。	0	
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用前に、本人・家族の施設見学を勧め、納得されてからの契約となる。入居体験の希望があれば短期利用も可能である。(居宅介護支援専門員との協議にて)	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)		自己評価6項目・外部評価1項目	1		
係り2 継続 これな るまで の支援 関係 開く	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は魚をさばいてもらったり、料理の仕方を教わったり、また、昔の歌も教わり支えてもらっている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族をケアチームの一員として、情報交換しながら、喜怒哀楽を共に分かち合っている。	1	3か月交代の受け持ち担当制で、家族とのコミュニケーションを図り、家族との関係を深めていく。
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は高齢者の支援に家族の存在が重要であることを認識しており、ケアプランに具体的に本人から家族への思いを記載して、それを実践している。また、暮らしの様子を伝え、家族関係の喜びが感じられる支援をしている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方との馴染みの関係が途切れないように地域住民との交流支援をしている。また、馴染みの店への買い物援助をしている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の心身の状況や利用者同士の関係を把握しており、食卓の位置や複数での入浴時は、配慮している。また、仲間はずれになる場合は、間に入り支援している。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方についても、病院や施設に訪問したり、家族と会えば近況を話し合い相談にものっている。	0	
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目
1 の 一 把 人 握 ひ と り	1 一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)			自己評価 3項目・外部評価 1項目	0	
	35 外部 評価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		家族や本人からの情報を聞き取り、本人の思いに沿うケアに努めている。また、表面的な要望だけではなく、心の奥に秘めた要求を察知して本人本位に検討している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を情報収集し、家族にも協力していただいている。さらに、傾聴し、楽しみや趣味など、本人の意向をくみ取る努力をしている。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの心身の状態や、医療連携の情報提供書も総合的に判断して、把握している。入浴時間や食事・外出など、その日の体調に合わせ、無理のない暮らしの支援を行っている。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	2		
	2 介護計画の作成と見直しのための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の他関係者と話し合い、要望や意見を反映し、介護計画を作成している。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に応じて、その都度話し合い検討している。大きな状況変化があれば、新たな計画を作成している。	1	3か月毎の見直しが適切との指導を受け、毎月の会議でも検討しながら、3か月毎の変更を記載するように改善。
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は簡素化しているが、心身の変化・家族の関わり・アクシデントなど、詳細に書くようにしている。情報の共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	1	状況変化を記載することを忘れる場合があり、指導改善していく。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能の利用状況は無いが、利用者が入院された時、遠くから来られた家族が泊られた。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベント時は併設のデイケアと合同で企画し、演芸などボランティアをお願いしている。消防署員から消火指導・地域民生委員に運営推進委員として参加・小学校ボランティアクラブの訪問・小学校学童から訪問がある。	1	運営推進会議で消防署員の参加の提案があり、地域の消防団員さんへお願いする予定である。
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの実態は無い	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	金銭虐待の実態があり、居宅介護支援専門員と共に包括支援センターと話し合い問題なく、現在入居されている。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望のかかりつけ医があれば、希望に沿って対応している。婦人科・眼科など受診援助している。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時は協力医療機関の物忘れ外来医の受診をしている。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携の看護師と情報交換しながら、医療管理や医療活用の支援をしている。必要時は、併設診療所からの栄養士や理学療法士からの指導がある。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで きたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は、情報提供を行いスムーズな治療ができるように支援している。また、早期の退院にも継続した治療ができるように、かかりつけ医と医療連携し、治療を継続をしている。	0	
		49 外部 評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで、看とりは2名あり、経過に応じてかかりつけ医と話し合い、方針を共有して支援した。現在、1名の方が肺炎を繰り返し、入院治療中である。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看とり同意書は重症化にならないうちから話し合い決めていくが、さらにその都度確認している。外出やイベント参加は、かかりつけ医や医療連携看護師と相談しながら検討している。本人や家族の希望に沿うようにしている。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	以前、本人希望で自宅を経由し、老健に入られた方があったが、居宅介護支援専門員を中心に関係者と話し合い、安全に住み替えができた。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価38項目・外部評価11項目	2	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価30項目・外部評価9項目	1	
		52 外部 評価 23	(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
			プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、常に利用者・家族に配慮し確認しながら取り扱っている。法人内の学習会に参加している。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	難聴の方は、耳元でゆっくり低い声で伝え、入浴の有無や外出時の食事のメニュー選択・買い物援助など、返事を急がず自己決定の暮らしの支援をしている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動計画はあるが、利用者の心身の状況に合わせ柔軟に対応し、外出先も利用者に希望を聞いて決定している。希望により命日のお供え物の買い物やドライブなどしている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回訪問の理美容の利用ができる。希望により他の利用も可能であり、家族が訪問時に連れて行かれる方もある。外出時は少しお化粧品をして喜ばれる。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者は利用者の好き嫌いを把握し、食べたい物を聞きメニューを決めている。夕食の準備(野菜を切る・和えるなど)を職員と一緒にしている。引き膳は職員の見守りでされている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒の希望者は無く、喫煙も現在(タバコにこだわるピック病の方がおり、火災の危険があり禁煙してもらった)無い。個人のお菓子は希望に応じて買い物の支援があり、また、お茶の時間でもおやつを楽しまれている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁が多くなった方も、定期的に誘導して自然排尿を促している。また、排泄パターンや気分に合わせてさりげなく誘導している。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂にこだわる方や一人でのんびり入りたい方・仲良し同士で入りたい方など希望を把握して、利用者が入浴を楽しむ工夫をしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後の休息や夕食後にテレビを観てから等、昔の習慣を配慮し、それぞれの休息を支援している。夜間不眠の方はお茶や傾聴で落ち着いてから休まれるよう支援している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部 評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯ものを干すたむ・掃除・簡単な食事の準備など一人ひとりにあった役割をお願いし、支援している。農家で野菜作りをされていた方達と野菜を植え水をやったり、草取りをして収穫を喜ばれた。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、週1度の好きなお菓子の買い物・お供え物の買い物を支援・外出時の買い物等支援している。	0	
		63 外部 評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望で公園や近辺の散歩を援助をしている。暑さが厳しい時は、併設の診療所やデイケアへ訪問している。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回日帰り小旅行気分を味わえる温泉などに行っている。季節によって、花見やピクニックへ出かけている。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月発行の施設たよりを送ったり、電話かけの希望がある時は、その都度対応している。また、正月には予防教室で書いた絵手紙の年賀状を家族に送り支援した。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	毎週1回木曜日に予防教室を開き、地域の方の参加があり、馴染みの関係がある。また、月1回の地域公民館での予防教室に行き、馴染みの関係で声かけがある。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	0	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の学習会に参加し、話し合い理解を深めて取り組んでいる。	0		
		68 外部評価29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は、日中出入り口に鍵をかけていたが、行政からの指摘から、ケアを見直し日中は鍵をかけていない。開閉時にチャイムで知らせるようにしている。一人体制時は付き添えないので、エレベーターのスイッチを切っている。(以前怪我をされた経緯があるため)	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室前を通る時に、さりげなく存在を確認している。また、離居の可能性のある方は、職員は把握しており、常に注意を払っている。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食される方があり、常に危険の可能性あることを話し合い、危険防止に取り組んでいる。また、ハサミや刃物は管理しているが、問題が無い方については、それぞれの居室で私物を保管され使用されている。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告や事故報告書の提出を促し、再発防止について話し合っている。最近、誤嚥の事例があり、再発防止で話し合った。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	学習会で心肺蘇生法・AEDの使い方など学習している。	0	
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回併設の診療所の主催で総合避難訓練をしている。また、地域の福祉委員に協力していただき、消防の連絡網に入ってもらった。	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては、具体的にケアプランに記載し、家族や職員も認識している。家族の訪問時に、リスクを再度伝え、危険を防止しながらその人らしい暮らし方を話し合っている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	1	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週2回のバイタル測定と食欲や睡眠・排便の有無や、記録や情報交換で一人ひとりの体調変化や異変は気付くように努めている。異変があれば、医療連携の看護師に相談し、診察や検査の有無を医師から指示してもらっている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬と説明書は、同じ場所に保管して、確認できるようにしている。それぞれの決まった方法で服薬の支援をしている。薬による症状変化も観察している。	1	薬の理解が弱いので、定期的に身体状況や薬の説明をする予定。
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、意識して水分補給や海藻・野菜・豆類を調理に利用している。また、日々の体操や自由に歩行できる廊下があり運動になっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけや援助をしている。週1回口腔ケアサービスを受けている。(希望者のみ)	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が年齢によって異なり、カロリー制限や塩分制限も考慮しながら、一人ひとりを把握して提供している。水分は濃縮尿の有無を確認し水分補給の援助をしている。また、嘔むことができなくなった方には、ミキサー食やキザミ食などの形態にしている。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対応マニュアルに沿って、対応している。年1回マニュアルの見直しを確認している。インフルエンザの対応は、法人内や併設診療所の対応を参考にしている。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩、まな板などの除菌を行い、食材もほぼ毎日新鮮なものを買って使用している。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8項目・外部評価 2項目	1	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5項目・外部評価 2項目	0	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の構造上、理想的にはできないが、できるだけ草花を植えて雰囲気を作っている。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な思いの原因になる物があればその都度対応している。リビングに西日が当たるため、光を和らげるための、絵など飾っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが広く、玄関ホールやトイレ前・リビングや廊下にイスがあり、好きなところで昼寝やおしゃべりをされている。	0		
		85 外部評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、本人の馴染んだ品を持ってきてもらい使用している。持ち込みは自由である。新しい物も、名前を書き入れることで、安心して使ってもらっている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除をする際、窓を開け換気を行い、気になる匂い等あれば直ちに原因を見つけ対処している。温度差で体調を崩されないよう室内温度の調整に気を配っている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	1	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下が広く、車イスの自操も可能で、手すりや杖を持って移動されている。居室内はつかまれる家具やイスなどを置き、転倒防止をしながら自立した生活ができるように工夫している。また、状態変化に合わせ、常に話し合い配置転換している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示はしているが、分られない方があり、表示内容を検討している。また、混乱や失敗によって恥じをかかれないように工夫している。	1	表示内容を検討中。	
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花や野菜を植え、水やりや草取り、野菜の収穫ができるようにしている。(夏場のみ)ベランダは洗濯物干場なので、干すのが好きな方が自由に出入りされている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	2		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。